

科目名	診療の補助技術Ⅰ		時期	時間	単位	
担当教員	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		1年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため、診療の補助技術の重要性を理解したうえで、科学的根拠に基づき、対象の安全・安楽を考慮した看護技術を修得することが重要である。演習を通して自己と他者の看護技術を省察することで、当該科目の看護技術を実施する姿勢や治療・処置の効果が最大限に得られる方法を修得するため当該科目を設定した。					
学習目標	1 検査とその検査に伴う看護技術を習得する 2 与薬の看護技術を習得する					
修得する看護技術項目	No. 38経口薬（バツカル錠、内服薬、舌下錠）の投与 No. 39経皮・外用薬の投与 No. 41皮下注射 No. 42筋肉内注射 No. 43静脈路確保・点滴静脈内注射 No. 44点滴静脈内注射の管理 No. 45薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬）（レポート） No. 53検体（尿、血液等）の取り扱い No. 55静脈血採血 No. 56検査の介助（レポート） No. 62針刺し事故の防止・事故後の対応 No. 64患者誤認防止策の実施					
授業計画						
回数	項目	内容			備考	
1～3	検査	1 診療における看護の役割 2 検査の目的と検査時における看護の役割 3 各生体検査の概要と看護 (1) X線撮影 (2) コンピュータ断層撮影 (3) 磁気共鳴映像 (4) 内視鏡検査 (5) 超音波 (6) 肺機能 (7) 標準12誘導心電図 4 検体採取と取り扱い (1) 尿検査 (2) 便検査 (3) 喀痰検査 (4) 血液検査 5 静脈血採血 6 生体情報のモニタリング 7 検査値の読み方			講義・演習 No. 53 No. 55 No. 56 (レポート)	
4～14	与薬	1 薬事法と日本薬局方 (1) 薬物の管理 (2) 与薬の経路 (3) 誤薬防止の与薬方法 2 与薬 (1) 経口与薬法（内服薬・口腔内薬） (2) 直腸内与薬法 (3) 注射法 ア 薬液の吸い上げ（アンプル、バイアル） イ 注射の実施方法 (ア) 注射の安全・安楽 (イ) 皮内注射、皮下注射、筋肉内注射 (ウ) 静脈内注射 (エ) 点滴静脈内注射 3 その他の与薬法 (1) 経皮的与薬 (2) 点眼 (3) 点鼻 (4) 点耳 (5) 吸入			講義・演習 No. 38 No. 39 No. 41 No. 42 No. 43 No. 44 No. 62 No. 64 No. 45 (レポート)	
15	試験	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ		有田 清子 他	医学書院		
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		任 和子 他	医学書院		
	今日の治療薬 解説と便覧		島田 和幸 他	南江堂		
	医療安全ワークブック		川村 治子	医学書院		
	系統看護学講座 別巻 臨床検査		荒木 昭博 他	医学書院		
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する					